

WEEKLY NEWS 2013-2014年度 第2640地区 和歌山東南ロータリークラブ

週報 6号 通算 2058回



例会日：水曜日
 第1・第2:18:30～(夜) 第3・第4・第5:12:30～(昼)
 例会場：ルミール華月殿 和歌山市屋形町 2-10
 事務局：〒640-8215 和歌山市橋丁 23
 サイバーリンクス N-4ビル 2階
 TEL 073-423-3666 FAX 073-423-7200
<http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html>
 E-mail: a-rotary@coral.cypress.ne.jp
 会長：郷間博敏 幹事：奥村智子
 会報委員長：谷口 拓・副委員長：赤在依美



かつらぎ町の花
《アジサイ》

本日の例会
 8月21日(水)
 12:30～華月殿

ロータリング：四つのテスト
 行事：クラブフォーラム
 会員増強委員会

次回の例会
 8月28日(水)
 12:30～華月殿

行事：外部卓話「ニート ひきこもりの
 就労支援について」
 若者サポートステーション わかやま
 臨床心理士 田中 康之様

先週例会報告

ゲスト：元和歌山県議会議員 渡辺 勲様

会場監督 赤井 誠

会長挨拶

郷間 博敏 会長

渡辺勲先生、本日はお忙しい中、例会にご出席いただきましてありがとうございます。
 この後、卓話の方よろしく願いいたします。
 毎日、暑い日が続きますが皆様、健康にはご注意ください。その暑い中で、委員会活動の
 方も皆様盛んに準備・行事をこなしていただいておりますが、出来るだけ多くの方にご参加
 して頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。



幹事報告

奥村 智子 幹事

- ・ガバナー月信 8月号を各テーブルに1部ずつ置いております。お目通しください。
- ・8月号ロータリーの友に「2012-13年度 3RC(東南・西・中RC)合同社会奉仕事業 防災作文コンクールの表彰式」の記事が ROTARY AT WORK P18 に掲載されております。
- ・地区より 2013-14年度インターアクトクラブ(年齢12歳～18歳まで方で結成されたクラブ) 国際交流親睦会が9月8日(日)10:00～ 桃山学院大学にて開催のお知らせが届いています。今回は精華高校・賢明学院中高・帝塚山学院泉ヶ丘中高が協力し、韓国の文化・遊びなどに理解を深めるための取り組みになっているそうです。ご参加される方は事務局までお知らせください。
- ・事務所夏季休暇のお知らせ。ガバナー事務所と同じく8月13日(火)～8月16日(金)までです。
- ・例会終了後、臨時理事会を開催いたします。役員・理事の方はお残りください。



ニコニコ箱

中曾 真二郎 会計

ゲスト 渡辺勲様・本日はよろしく願いいたします。
 郷間君・渡辺先生 本日は宜しく意お願いいたします。
 保田君・毎日毎日 あついですね。皆様 元気でがんばりましょう。
 辻本君・渡辺先生 卓話よろしく。
 市川君・渡辺先生 よこそ！残念ながら早退します。ごめんなさい。
 和田君・渡辺先生 こんばんは！！今日は卓話楽しみです。
 ご本人お誕生日お祝い・溝落君、土屋君、赤井君。
 配偶者お誕生日お祝い・有本君、籠田君、平君。
 2012-13年度 皆出席会員表彰・土屋君、籠田君。



ニコニコ	米山奨学金	ロータリー財団	東南育英会	紀南災害義援BOX	
累計	656,776	0	2,000	5,000	0

出席報告	出席者	出席率
会員総数	48名	8/7 35名 77.78%
出席免除会員	3名	7/24 37名 80.43%



本日 例会終了後、社会奉仕委員会を開催いたします。
社会奉仕委員会の皆様、お残りくださいますよう よろしくお願いたします。

「古希雑感」 元和歌山県議会議員 渡辺 勲様



昭和20年7月9日。和歌山大空襲の日、米軍のB29から雨アラレの如く投下される800tの焼夷弾が降る中を、3歳の妹を背にし両手に7歳の姉と5歳の私の手を引いた母は逃げ惑いました。

死者1,208人、負傷者4,560人、家屋焼失31,137戸、被災者113,548人。昭和19年の和歌山市の人口は205,000人でしたが、翌20年には146,000人に減少、衣職住を失った市民の多くが和歌山市を去りました。一夜にして廃虚と化し物資欠乏の厳しい環境と向き合う日々が、私の幼少期でした。

昭和31年、復興の「金の玉子」と持てはやされ、新制中学卒業と同時に私はある鉄工所の町工場に就職いたしました。明治生まれの創業者、西谷楠太郎氏から、「高等教育を受ける機会に恵まれなかった者は『聞き学』に学ぶべしと、吉田松陰の『飛耳長目』の実学について7年間薫陶を受けました。

7年間の現場修業を終え、私は待望の営業マンに登用されることになりました。その門出を祝し西谷社長から一本のネクタイと一冊の本を贈っていただき、私は商戦の渦の中へとその第一歩を踏み出しました。営業マン一年生の私は西谷社長から一つの目標を授けられました。昭和26年に大阪西立売堀に機械商社「山善」を創業した山本猛夫氏と、また同じく昭和28年に和歌山市に写真現像機器メーカー「ノーリツ鋼機」を創業した西本貫一氏の両氏に最良にされる営業マンになれ。そうなればお前も一人前だ、と西谷社長から宿題を与えられたのです。

山本猛夫さんには、一年間の取引実績を評価され、昭和38年に海外の販路開拓活動に同行させていただき、山本さんから3年間の捕虜生活の体験や商業戦線の現実を教えてくださいました。人間には「3つの目」が必要だ。1つは、「足下を見る目」。2つ目は、「先を見る目」。3つ目が「他人の目」であるとも教えられました。

当時（昭和38年）、一卓5人テーブル10万円の豪華中華料理を初めて頂戴しましたが、「舌の領域もピンからキリまで味わうことだ。それも人間を大きくする」など、今も脳裏に残る沢山の教訓を山本さんから学びました。

西本貫一さんには、突破力とオレが憲法だ！くらいの強い意志がなければ大事業は成し遂げることはできない、とその後ろ姿から学ばせていただきました。西本さんも軍隊生活でシベリア抑留の壮絶な体験があり、山本さん同様に西本さんの生き様が強く私の脳裏に刻み込まれました。

「艱難は汝を玉にする」— 男が本物の男になる条件とは「多くの修羅場を体験すること」だと思います。厳しい環境と向き合いくぐり抜けて男は研かれるとの教訓でしょう。これからも山本猛夫さんや西本貫一さんのような本物の男になれるように残りの人生を精一杯生きたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

《ロータリーの守るべき道》

④ 卓話中私語はつつしみ、スピーカーの話に耳を傾けましょう。